

<p>★学校教育目標 自立 共生 将来に夢や希望を抱き自らその実現に向け成長する力、より良く生きるための基礎的力（＝自立）を付け、地域における学校として助け合い共に生きていく力（＝共生）を育む。</p> <p>★目指す学校像（ビジョン）</p> <p>【目指す児童・生徒像】 ①よく学び、よく考え、的確に判断し、自ら進んで行動する ②自他を尊重し、他を思いやる ③いじめをしない、許さない ④勤労や奉仕の大切さを知り、社会や地域社会に貢献する</p> <p>【目指す学校像】 面倒見のよい学校として、①生徒・学力定着、進路実現 ②保護者地域の期待に応える ③教職員・指導力、職責 ④生徒・教員間の信頼関係 ⑤生徒教員・人権尊重、いじめなく、適切な言動</p> <p>【目指す教師像】 ①指導力を身に付け、充実感をもって職責を果たす ②生徒との間に深い信頼関係がある ③教員一人一人が人権尊重の精神をもち、不適切な言動がない</p>	<p>★重点計画の概要</p> <p>○生徒が楽しく学べる学校規模を目指す（三中プロジェクトの推進、英検受験の促進・出前授業・特色の発信） ○個に応じた指導の工夫による学力を向上させる（教科・道徳の授業の工夫と授業力向上） ○自他の大切さを認め、行動できる豊かな人間性を育成する（いのちの大切さを学ぶ） ○健康・安全指導を推進し、体力を付ける（がん教育、情報モラル教育、体を動かす取組） ○特別支援教育を充実させる（特別支援学校との学年交流、三中地区小学校との連携） ○地域・社会の一員としての生徒を育成する（地域調べ、職場体験学習、地域ボランティアとしての参画）</p>
--	--

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・ 学校運営連絡協議会 の意見	結果の分析（・）と 改善策（○）
				評価点	取組指標	評価点	成果指標		
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	生徒が楽しく学べる学校規模を維持する	英検受験を促進し、学力向上支援者を配置・有効活用する	①三中プロジェクト（英検受験の推奨、英検教室、出前授業、補習授業、部活動の充実、広報活動等） ②補習教室・英検教室への夢が丘小学校児童参加の促進	2	4 三中プロジェクトの取組に参加した教員 95%以上	2	4 三中プロジェクトを知っている近隣小学校5・6年生保護者 90%以上	・三中プロジェクトの成果・魅力のアピールが必要 ・出前授業により入学者へ安心感を ・部活動、学校行事における一体感のため生徒数、適正規模維持は重要 ・小規模校ゆえの良い活動の益々の充実と継続	・三中プロジェクトの終了、内容一部の継続を地域と共有し、放課後学習教室に効果的につなげる必要がある。 ○第4次日野市学校教育基本構想に位置付けていた三中プロジェクトに代わる、児童・保護者のニーズに合った持続可能な取組を研究、実施する。
				3 90%以上	3 70%以上				
				2 80%以上	2 50%以上				
				1 80%未満	1 50%未満				
自他の大切さを認め、行動できる豊かな人間性を育成する	命の授業を充実させる 人権教育を実施・推進する	①社会性を育てる機会の充実（集団活動を通じた有用感の醸成、規範意識を高める指導（礼儀、挨拶）の充実） ②生徒の良さ、正義感、真面目に取り組む気持ちの尊重 ③人権教育の推進、人権意見発表会実施 ④教育相談機能を生かした指導（共に解決策を探る場の設定、不登校状態生徒及びその保護者に対する心理解と指導）	3	4 生徒の社会性・人権意識を醸成する指導を行った教員 90%以上	3	4 社会性・人権について、家族と話したことのある生徒 70%以上	・集団の中の個を自覚させ、皆が気持ちよく生活できるよう意識付け ・人権意見発表会の継続 ・道徳における自由な意見発信、新たな考えへの接触 ・教員による体験発信、本音による指導 ・生徒個別に応じた適切な指導・助言の継続 ・小学校からの9年間を見通したあいさつの指導、社会性を育てる機会の充実が必要	・命や人とのかかわり、多様な立場について取り上げる授業、指導の機会の設定を意図的に実施する必要がある。 ○社会性を身に付けさせる道徳の時間や学校生活における日常会話、学校からの発信等を計画的に設定する。 ○つながらずの方法の個別設定、継続に努める。	
			3 80%以上	3 60%以上					
			2 70%以上	2 50%以上					
			1 70%未満	1 50%未満					
みんなの多様な学びとしあわせをつくる	個に応じた指導の工夫により学力を向上させる	教科の多様な学びと学び方を実践する 考える授業を展開し、主体的に学ぶ態度を育成する GiGAスクール構想に基づく一人一台の情報端末を活用する	①主体的・対話的で深い学びの研究（書く活動やグループ学習の実施、知識・技能、思考力・判断力・表現力の育成、主体的に学ぶに向かう力、人間性等の涵養） ②ICTの効果的活用（情報端末・学習コンテンツ活用） ③UD化による授業改善と実践 ④家庭学習や自学のための啓発資料作成	3	4 生徒が主体的に考え、話し合う授業を実践した教員 90%以上	2	4 考え、話し合う活動の授業が多いと感じた生徒 90%以上	・口頭発表が苦手な生徒への指導としてなど、学習者用端末のより一層の効果的活用、家庭学習が未習慣化の生徒が自主的に学習することができるきっかけの研究 ・授業・家庭学習への取組の状況が学年進行に応じている状況を理解 ○自らの考え及びその過程を口頭だけでなく文章表現させる場面を設定する。 ○学習者用端末を一言課題だけでなく個別課題設定に活用する。 ○家庭学習課題の効果的設定を研究する。	
				3 80%以上	3 80%以上				
				2 70%以上	2 70%以上				
				1 70%未満	1 70%未満				
健康・安全指導を推進し、体力を付ける	基本的な生活習慣の定着のための指導を実施する	①礼儀作法指導、体力向上の推進 ②部活動の充実（週2回の休養日の設定、技能の他、取り組む姿勢の指導） ③水泳指導の工夫・研究（夢が丘小学校プール有効な使用法の模索・研究）	3	4 健康・安全に配慮し、体力向上に関する授業・活動を実施した教員 90%以上	3	4 健康・安全を保持し、スポーツに親しみ体力が向上したと感じた生徒 90%以上	・適正な生活リズムによる健康維持が必要 ・誘惑の多い状況の中での夜更かし防止、偏食・運動不足の解消が必要 ・礼儀作法を身に付けさせる方策 ・体力向上のための家庭との連携、学校からの発信 ・少人数による部活動実施の困難さを理解。無理のない範囲での実施 ・小学校とも連携し、健康・体力増進を図る	・生活指導の内容・場面を保護者と共有する必要がある。 ・運動系・文化系部活動所属生徒数が偏り、生徒の部活動への期待との差は継続してある。 ○相談し易い仕組みを継続工夫し保持する。 ○部活動運営上の工夫が求められている。継続実施方法を部活動指導員・外部指導員活用を含め研究する。	
			3 70%以上	3 70%以上					
			2 50%以上	2 50%以上					
			1 50%未満	1 50%未満					
社会と未来に開き、みんなをつくる	地域・社会の一員としての生徒を育成する	①インクルージョン推進に向けた交流・共同学習の実施、地域行事参画の促進 ②家庭訪問、三者面談実施による生徒理解と支援 ③ホームページ、学校・学年・学級だよりによる学校情報の提供（三中プロジェクトの広報） ④地域人材・教材の活用（地域調べ、食育、職場体験学習、地域ボランティアへの参画）	2	4 地域人材・教材を活用した授業・活動を実践した教員 90%以上	1	4 地域行事・地域ボランティアに参画した生徒 80%以上	・育成会行事・祭でのボランティア活動、児童館評議員としての参加に頼もしさを感じる ・自主性が大切、興味を引き出す企画、大人が生き生きと参加する様子を見せる ・みっちゃん団との連携 ・みつばルームの取組を評価 ・職場体験学習参加者の評価 ・小学校での取組からの機会減少	・地域行事への参加を参画レベルに引き上げることを学校・地域で共有する必要がある。 ○地域における活動の有効性を再整理・再確認し、継続手法を校内外にて共有する。 ○地域への生徒参画機会を案内し、活動にかかわる有用感を感じ得るよう支援する。	
			2 80%以上	3 70%以上					
			2 70%以上	2 60%以上					
			1 70%未満	1 60%未満					
特別支援教育を充実させる	特別支援学校との学年交流、三中地区小学校との連携を推進する ユニバーサルデザイン（UD）及びICTを活用した授業を推進する	①特別支援学級（8組）・ステップ教室における生徒一人一人の発達課題の把握・理解、指導 ②特別支援委員会での協議等内容の共有、指導への活用 ③インクルージョン推進に向けた交流及び共同学習の推進、近隣小学校、七生特別支援学校との交流（各学年交流、連絡協議会、地域交流） ④生徒が必要とする合理的配慮の具体化、学びやすい環境の整備	2	4 ユニバーサルデザイン化の授業、個に応じた授業を実践した教員 90%以上	2	4 前年度より授業が分かった、学力が身に付いたと感じた生徒 80%以上	・近隣の小学校、七生特別支援学校との交流の継続 ・七生特別支援学校との交流においてコミュニケーションを積極的にとる姿勢を評価 ・知識だけでなく、交流・体験を通じた理解・納得へ ・インクルージョン、交流の継続が障害のある人の理解に繋がることの確信 ・学習者用端末活用による意見交換・調整の実施	・七生特別支援学校との直接交流を従前同様に実施できた。 ・校内において互いに個性を認めることのできる生徒を育成する必要がある。 ○継続実施できるよう、交流学習の方法を改善した。 ○インクルージョン研究の成果を維持、継続させ、校内における互いの苦手の理解を深めさせる。	
			2 80%以上	3 70%以上					
			2 70%以上	2 60%以上					
			1 70%未満	1 60%未満					

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。